

報道関係各位

2016年3月10日
学校法人 成城学園

＜創立 100 周年プロジェクト＞

学園内の伐採樹木を、思い出の「定規」として再生

～新校舎建築のための一部伐採樹木を、学び舎の思い出として、学生・生徒・児童にもとに～

学校法人成城学園（東京都世田谷区 理事長：渡 文明）は、創立 100 周年プロジェクトの中核事業として中高一貫校の新校舎を建築するにあたり、一部伐採せざるをえなかった高等学校校舎周辺の樹木を「定規」に再生し、学び舎の思い出として、成城学園の学生・生徒・児童に配布いたします。



当学園は創立当初から「自然に親しみ、自然から学ぶ教育」を標榜し、大正末期から成城学園共通の財産を何らかの形に残してきました。今回一部伐採された樹木も、新校舎の壁面などに使用しております。しかしながら、中高一貫新校舎は 2016 年 4 月竣工のため、3 月で卒業する現高校 3 年生は新しい校舎で学ぶことはできません。

そこで、今回一部伐採されたサワラやスギを使用して「定規」として再生し、成城学園の学び舎の思い出として、現成城学園高等学校 3 年生を中心に学生・生徒・児童に配布いたします。

尚、当学園は今回一部伐採された樹木を次の 100 年につなげていく「100 年の森」プロジェクトを行っております。

◆「100 年の森」プロジェクトについて◆

「100 年の森」プロジェクトは、新校舎建設に伴い伐採される予定の樹木の種子を伐採前に初等学校の子供たちが拾い、育て、苗木になった段階で高等学校校舎跡地に植林して DNA を残すというプロジェクトです。豊かな自然環境は成城学園の特徴の一つです。先人たちが残してくれた財産を新しい森として再び蘇えさせます。

尚、「100 年の森」プロジェクトは、創立者 澤柳政太郎の出身地である長野県林務部のご協力を頂いております。

